

平成29年葦王町議会定例会3月会議

町長施政方針

葦王町

(平成29年3月1日)

平成29年蔵王町議会定例会3月会議が開催されるにあたり、ご審議をいただきます平成29年度一般会計予算をはじめ、各議案の説明に先立ち、町政運営に対する基本方針を申し述べ、議員の皆様をはじめ、町民の皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

## 1 はじめに

間もなく東日本大震災から6年目の「3月11日」を迎えようとしています。犠牲になられた皆様のご冥福をお祈り申し上げますと共に、沿岸部市町の一日も早い復興を心より願うものであります。

応援職員の確保が難しいと聞いており、本町では山元町・南三陸町への職員派遣を引き続き行ってまいります。

さて、私は昨年9月、第17代町長として当選させていただき、就任以来4期13年目に入り、今般の平成29年度当初予算を編成し、定例会3月会議を迎えております。

町政を預かる立場として、町民の皆様の負託に応え、町の発展、町民福祉の向上に向けて、なお一層努力していきたいと決意を新たにしているところであります。

本町は、「第四次蔵王町長期総合計画」に基づき各種のまちづくり施策を進めており、計画にそった「活気ある、住みよい町づくり」に向けた施策をしっかりと推進していきたいと考えております。

## 2 社会経済情勢と町の基本的な考え

さて、内閣府が1月に発表した経済報告によれば、「景気は一部改善の遅れもみられるが、先行きは

雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復が期待される。」と判断されております。

国政では、第193回国会で、安倍総理の施政方針演説が行われ、「力強く成長し続ける国造り」の中で、アベノミクスの成果として、「全国で経済の好循環が生まれており、更に進めていくこと」、地方創生においては、「地方の意欲的なチャレンジを後押ししていくこと」、観光立国としては、「外国人観光客のさらなる増加を目指していくこと」などが推進されるようであります。

また、農政の面では、若者が農林水産業に夢や未来を託することができるよう改革し、農業の体質改善を目指そうとしております。

このような国の政策が確実に進められ、町民生活においても雇用や所得環境が改善され、景気回復が

実感できるようになることを期待しているところ  
であります。

こうした中、本町の基幹産業の「農業」において  
は、農業者の高齢化や担い手の減少、農産物の価格  
低迷・異常気象による影響などにより、農業を取り  
巻く情勢は極めて厳しいものとなっております。

新規就農者の確保・育成は、本町の農業を存続す  
るうえで重要な課題でありますので、国の補助を  
活用すると共に、町独自の補助制度を創設しながら、  
後継者の確保につなげてまいります。

また、地産地消の推進のため、「地産地消・6次  
産業化推進協議会」において、農産物の地域内消費  
拡大と収入の向上を図り、地域活性につなげてまい  
ります。

もう一つの基幹産業の「観光」においては、東日本大震災などの影響に加え、蔵王山火口周辺警報の発令に伴う風評も重なり、本町の観光客の入り込みは回復しているものの、まだ厳しい状況が続いております。

この状況を打開するためには、国内旅行者に加え、外国人旅行者の増加を図る必要があります。仙台空港の完全民営化に伴い誘客を図る施策として、台湾へ職員等を派遣して商談会等を行い、本町の観光資源を広くPRすると共に、交通アクセスを含めたインバウンド受入れ態勢の整備を図り、観光客のさらなる増加につなげたいと考えております。

さらに、広域観光の推進のため、先月、県南4市9町の構成で設立された「宮城インバウンドDMO推進協議会」を中心に、観光地同士の連携と本町の

観光資源と地場産品などを結びつけ、新たなニーズを掘り起こし、交流人口の拡大と町の発展に努めてまいります。

次に、防災・減災対策については、昨年7月からの蔵王山における噴火警戒レベルの運用開始により、火山活動状況に応じ「警戒範囲や防災対応」を区分して発表できるようになりました。このことから、災害発生時における迅速な対応を行い、万全の体制を築いてまいります。

蔵王山頂付近の電力供給が行われておらず、防災情報等の受信ができない状況ですので、恒久電源の確保に向けて関係機関に要望してまいります。

新年度においても、防災サイレン・スピーカ整備を進め、遠隔操作により情報発信を行うほか、避難道の確保・整備や自主防災組織の設立支援などを

強化しながら、町民の生命と財産を守るために取り組んでまいります。

また、昨年8月に台風による大雨・洪水等の被害が起きておりますが、町民や町を訪れる人たちの安全・安心を確保するために、各種防災・減災対策に力を入れてまいります。

次に、地方創生については、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、今年度から地方創生事業に取り組んでおります。

将来にわたり本町が自立していくために、新年度においても「移住・定住の流れをつくる魅力ある地域づくり」や、「結婚・出産・子育てしやすい環境づくり」などに積極的に取り組んでまいります。

移住・定住の促進については、みやぎ蔵王別荘協議会と連携し、「蔵王移住相談室」を開設したと



ころですので、新年度には空き家情報の提供などをさらに充実させ、定住促進につながるよう取り組んでまいります。

子育て支援策については、いよいよ新年度から地域福祉センター内に「子育て支援センター」を開設いたします。子育て世代の皆様が気軽に情報交換や、育児相談などを行う場として利用していただけるよう、運営体制を整えながら進めてまいります。

また、新年度においては、地産地消推進に関する事業、未来へつなぐ伝統産業活性化事業などについても、官民協働で取り組んでまいります。

次に、2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンについては、茨城県常陸大宮市と連携して「オリパラ推進協議会」を立ち上げておりますが、今後、パラオ共和国との基本合意書の

締結をはじめ、新年度ではパラオとの交流事業の推進に取り組んでまいります。

次に、「第五次蔵王町長期総合計画」の策定については、平成30年度から39年度までの基本指針となる計画の策定作業を進めてまいります。新年度には、地区懇談会等を開催しながら、町民の皆様の意見が十分に反映される計画となるよう策定に取り組んでまいります。

### 3 財政運営の見通し

次に、平成29年度以降の本町の財政運営について、申し上げます。

本町の財政状況は、財政健全化法に定める「実質公債費比率、将来負担比率」などの指標や、地方債の現在高、基金積立額の状況などをみますと、健全財政を維持できていると実感しております。

しかしながら、少子高齢化や人口減少により、町税や地方交付税などの歳入が減少していくと見込まれる中、歳出では、社会保障費の自然増加に加え、公共施設の老朽化に伴う補修費や更新費用の増加は避けることができず、財政負担が増えていくのではないかと考えております。

また、児童・生徒数の減少によって小中学校の統合が現在の課題となっておりますので、学校再編等の検討を重ねながら、児童生徒のより良い教育環境と教育施設の計画を策定していかなければならず、長期的な財政計画と連動して考えてまいります。

また、公立刈田総合病院については、経営が厳しさを増しており、本町の負担が増えているところです。病院新改革プランに基づいた運営による経営の効率化を図りながら、町民の健康を守るために、

地域医療や二次医療・救急医療を維持してまいります。

さらに、仙南地域広域行政事務組合においては、消防職員の増員計画が実施されるほか、白石斎苑の建替え計画が進んでおり、平成29年度から負担金が増える見込みであります。

こうした状況から、今後とも町が自立して自らの道を切り開いていくために、できる限り歳出を削減し、歳入を確保する努力をしなければならないと考えております。

財政運営は今後厳しさを増してまいります。 「町民が主役、地域が主体のまちづくり」を基本理念として、安全・安心、そして心豊かに暮らせる、健全で活力ある地域社会を、町民の皆様と行政が一緒になって作り上げていく「協働のまちづくり」

を目指していくことが、私に課された大きな使命であると考えているところでもあります。

第四次長期総合計画の最終年度を迎え、私はこのような覚悟を持って、全力で町政運営に臨む決意があります。

#### 4 新年度の施策大綱ごとの主な事業

次に、新年度における主な事業について、第四次蔵王町長期総合計画に掲げる「施策の大綱」ごとにご説明申し上げます。

**健やかなまちづくり**（保健・医療・福祉）  
～みんなが、心も体も健康になる～

まず、健やかなまちづくりに向けてではありますが、全ての町民が心身ともに健康で、笑顔あふれる町を築くことを目標に、施策を進めてまいります。

子育て支援策として、新たに「子育て支援センター」を設置し、育児相談・指導、子育てサークルの育成支援、情報提供など事業を進めてまいります。

子ども医療費助成制度については、昨年10月から対象年齢の上限を15歳から18歳に引き上げ、制度拡充を行っております。さらに、「すこやか養育助成金」、「乳幼児紙おむつ券助成」などの町独自施策の継続により、子育て家庭の経済的支援に努めてまいります。

インフルエンザ予防接種については、ゼロ歳児から中学2年生までの一部助成を行うと共に、受験期を迎える中学3年生に対して、費用の全額助成を継続し、家庭内感染の予防に努めてまいります。

「あったか支援金」、「母子・父子家庭医療費助成制度」についても制度を継続し、ひとり親世帯の

経済的支援に努めてまいります。

児童館については、永野児童館の駐車場整備、各児童館の照明器具のLED化を行うほか、放課後児童クラブ運営を充実させ、施設の利便性向上に努めてまいります。

高齢者や障がい者の福祉施策については、配食サービス事業、介護用品給付事業、障害者地域生活支援事業、インフルエンザ予防接種費用の一部助成などを継続して、よりきめ細かに各種サービスの提供に努めてまいります。

新年度は、旧社会福祉協議会建物を取得し、住民参加型の介護予防活動や精神障がいを持つ方への生活支援の場として利用してまいります。

地域医療の充実に向けては、医師会、歯科医師会などと連携しながら、休日診療、救急診療の体制を

維持してまいります。

**学び楽しむまちづくり**（教育・文化・スポーツ）  
～みんなが、生き活きとなる～

次に、学び楽しむまちづくりに向けてありますが、蔵王町の伝統と文化を重んじ、創造性豊かな人材育成と個々の能力を十分に引き出せる教育を目標に、施策を進めてまいります。

学校再編については、統合方法や場所などについて、「小中学校再編実施計画策定委員会」に諮問し、検討いただいているところであり、今年度中に委員会から答申をいただく予定であります。新年度の早い時期に、総合教育会議において方針を決定し、第五次長期総合計画に位置づけをして取り組んでまいりたいと考えております。



学校教育については、すべての児童生徒が、自然・文化・歴史に慣れ親しみ、創造性と人間性豊かに育つよう、スキー教室や地域の人と合同で実施する防災訓練などを継続してまいります。

外国語指導助手による英語教育や、学び支援コーディネーターによる学習支援、学校図書支援員による学校図書室の機能充実など、児童生徒の豊かな心の育成や学力向上のための取り組みを継続してまいります。

学校施設整備では、平沢小学校体育館トイレ改修工事、永野小学校校舎屋上防水工事などを実施し、教育環境の向上に努めます。

生涯学習分野では、本町の「地域学校協働活動推進事業」が今年度に文部科学大臣から表彰を受け、他の模範と認められましたので、引き続き、学校・

家庭・地域が協働して、子どもたちを育てる環境づくりを推進してまいります。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウンについては、常陸大宮市と立ち上げた「オリパラ推進協議会」負担金を計上し、連携しながら事業推進に取り組んでまいります。

パラオ共和国との交流については、昨年度に訪問したところですが、新年度では改めて訪問団を結成して、未来へつなぐための訪問・交流を行ってまいりたいと考えております。

スポーツイベントでは、10月に「三遊亭円楽杯ゲートボール交流大会」を開催するほか、7月には東北地域ゲートボール選手権大会（国体予選会）を総合運動公園で開催し、スポーツの振興と交流人口の増加を図ってまいります。

「日本の蔵王ヒルクライム・エコ2017」大会については、新年度からはスポーツ振興課が事務局として開催し、蔵王の素晴らしさを全国に発信していきたいと考えております。

体育施設は、平沢コミュニティグラウンド駐車場舗装工事を行うほか、町内の施設が一層利用しやすくなるよう、環境づくりに取り組んでまいります。

**美しい快適なまちづくり**（環境・生活基盤）  
～みんなが、誇りを胸に～

次に、美しい快適なまちづくりに向けてであります。蔵王のすばらしい大自然を未来に引き継ぐことができるよう、良好な自然環境の保全と創造、生活環境の向上を目標に、施策を進めてまいります。

地球環境に配慮した「環境への負荷低減」のため、「電気自動車用急速充電器」を役場駐車場に設置

しましたので、利用の促進を図るほか、「住宅用太陽光発電システム設置事業補助金」の継続などを進めてまいります。

また、本町の豊富な自然資源を守り、情報を発信することで「蔵王町への新しい人の流れをつくる」という目標を掲げており、自然の生い立ちやその恵みを子ども達などに伝える出前講座、ジオパーク教室などを継続し、蔵王のすばらしい自然環境をPRしてまいります。

道路整備では、「湯口線、下別当1号線」の改良工事や、林道青麻山線舗装工事を進めるほか、老朽化した除雪機械を更新し、町道等の維持補修を行い、安全で快適な道路の維持・整備に努めてまいります。

また、公営企業会計になりますが、水道事業では、国道4号拡幅に伴う水道管布設工事、下水道では、

宮大除地区污水管敷設工事を進め、周辺地域の利便性の向上を図ってまいります。

**活気あるまちづくり**（産業）  
～みんなが、元気になる～

次に、活気あるまちづくりに向けてであります、地域経済の活性化を誘引する流通体系の形成と既存産業の育成、町民の皆様が働ける雇用の場の創出を目標に、施策を進めてまいります。

農業振興については、地方創生推進事業として、「地産地消・6次産業化事業」を推進し、地場産品の販路拡大・PRや町内事業者等が地場産品を調達しやすい仕組み作りなどに取り組んでまいりたいと考えております。

新規就農者の確保のために、国の制度では対象とならない親元就農においても給付金を支給する

町独自の制度を作り、農業後継者の確保を図ります。

有害鳥獣対策については、電気柵設置事業の補助金を継続するほか、「農作物有害鳥獣駆除対策事業補助金」を増額して駆除に努め、有害鳥獣解体場の舗装等整備工事を進めます。

観光振興については、開通前の蔵王エコーラインを歩く「雪の壁ウォーク」を継続し広域観光の充実につなげるほか、国内観光客の誘客促進、並びに、インバウンドの誘客促進のため、ツアー商品造成などを行い、町観光物産協会に委託し、地域経済の活性化を図ってまいります。

遠刈田伝統こけし工人の後継者育成のため、国の地方創生推進交付金を活用し、今年度から「未来へつなぐ伝統産業活性化事業」に取り組み、引き続き、工人の育成、新商品の開発・販路拡大など、地域

産業の振興を図ってまいります。

NHK大河ドラマ「真田丸」は、28年末で放送が終了しましたが、本町の歴史探訪や地域振興に大変有意義なものであったと考えております。

今年度の「みちのく真田ゆかりの地事業」として、矢附真田の郷歴史公園整備などを行い、多くの観光客が訪れております。引き続き、白石市・由利本荘市と連携して事業に取り組み、歴史遺産のPRと交流人口の増加につなげてまいります。

**共に創るまちづくり**（町民参加・安全・行政運営）  
～みんなが、一緒に～

次に、共に創るまちづくりに向けてありますが、次世代を担う若者の定住と住民の主体的な地域コミュニティづくりを支援し、災害に強い地域づくりを推進すると共に、自主財源の確保と実質

公債費比率を抑制することを目標に、施策を進めてまいります。

防災・減災対策については、風水害や地震、火災など各種災害を想定した対応が求められているところであり、町民の安全・安心を守っていくためには、「自助」、「互助」、「公助」の精神に基づき、行政と町民の皆様が役割を分担し、助け合う必要があると考えております。

自主防災組織については、現在11行政区で組織されており、今年度さらに設立予定がありますので、行政区との連携を深めながら、さらに設立できるよう進めてまいります。

地域の防災力確保の要である消防団員の確保や活動環境の充実を図る一方、施設整備については、消防ポンプ自動車や小型消防ポンプ積載車の更新



を行い、万が一の事態に備えてまいります。

自然災害や火災発生時における情報を、住民や観光客に速やかに伝達する「防災サイレン・スピーカ」については、27年度に2基設置しましたが、新年度でさらに2基設置することとし、防災体制の強化を図ってまいります。

財政健全化に向けては、次代を担う子どもたちに、過大な負担を残すことにならないよう、将来を見据えた財政運営を進めていきたいと考えております。

新年度においても、歳入となる町債の発行については、将来の実質的な財政負担等も考慮しながら、適正水準を維持していくことにしております。

また、歳入財源のふるさと納税制度については、方策を考えながら積極的に活用し、情報発信の強化や地域産業の活性化を図るために取り組んでまい

ります。

最後に、「第五次蔵王町長期総合計画」の策定については、今年度は第四次計画の検証を行い、町民からの意見の集約、有識者ヒアリング調査などを通じ、町の現状と課題の整理などを進めてまいります。

新年度では、地区懇談会の開催などを行い、町民の皆様のご意見を十分踏まえながら、10年後の町の未来を描く基本計画を慎重に策定してまいりたいと考えております。

## 5 結びに

以上、平成29年度を迎えるにあたり、私の町政運営に関する基本的な考え方などを申し述べ、町民の皆様並びに議員の皆様の一層のご理解とご協力、そしてご支援を心からお願い申し上げます。